

「交流部会」の取り組み

神原中：◎山田泰之・福里祥代・田名泰邦
上間里花・又吉ひとみ・古澤利恵子
神原小：○工藤直也・久田輝子・與座美夏
新垣貴子・高良真利恵・玉城道子
壺屋小：○金城孝之・知花京子

1 取組の趣旨

本部会は、小中一貫教育の目的である「義務教育9年間を見通した教育実践」と「中1ギャップの解消」をめざして、下記の事項をねらいとした。

- (1) 計画的・継続的な交流活動を通して児童に中学校生活に対する希望や抱負を抱かせ中学校生活へのスムーズな移行を図る。
- (2) 児童生徒が交流する機会を持つことで異学年のふれあいの中から豊かな人間性や社会性を育成する。
- (3) 交流行事の中で、相互に協力し連携することで、神原中校区の児童生徒の一体感や所属感を高める。

本研究の1年次は、以上の3点を踏まえた交流行事を実施することで研究主題「自ら考える力を育て社会性を身に付けた児童生徒の育成」に迫った。2年次においても1年次の課題を踏まえ、改善を図りながら、継続して実施し、深化を図ることで主題に迫りたい。また、同時に、取り組みの有効性を検証していきたい。

2 活動内容及び実践報告

(1) 小中合同授業参観の実施

試行期間を経て今回で3度目の実施である。過去2回の実践の成果と課題を踏まえ、改善を図りながら、今年度の計画となった。前回との違いは、小学6年生の中学校体験である「神中登校日」を設定したことである。

①ねらい

神中登校日に授業参観を実施し、乗り入れ授業等を通して、小中一貫教育校の取り組みの様子を知らせる機会とする。

②期日 5月31日(金) 1校時～4校時

(1～3校時授業参観、4校時説明会)

③留意事項

ア 公文は、壺屋小・神原中連名で発送し、

壺屋小6年生と神原中学校各学級授業一覧を記載する。

イ 保護者に普段の授業参観と違う点をアピールする。

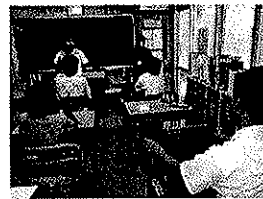
- ・小学校6年生が中学校体験をしている様子を参観することができる。
- ・乗り入れ授業を見ることができる。
- ・小中一貫教育についての説明会を行う。

(2) 中学校特別支援学級体験

①期日 5月31日(金)

②参加生徒 神原小2名、壺屋小1名 計3名

③内容



ア 英語(2校時)

- ・神原中生も含め全員自己紹介。
- ・アルファベットを口頭練習したあと、アルファベットカードゲームを行った。
- ・数字を1～13まで練習した後、トランプでカードゲームを行った。(中学生にも負けないくらい頑張っていた。)

イ 社会(3校時：パソコン室)

- ・ワークシートを使って、那覇市の調べ学習をした。(パソコン操作が得意な児童は、スムーズにワークシートを書いていた。)

(3) 部活動見学

2年次の取り組みの柱は、研究主題に迫る内容であるのかということである。研究主題の「社会性を身につけた児童生徒」に中心を据え、具体的に何を身につけさせたいのかを検討することからスタートした。コミュニケーション能力の変容とルール・マナーの習得を想定し、取り組みを立案した。今年度の重点取り組みは、気持ちの相互交流である。

①ねらい

ア 小学生が中学校生活の様子を聞き、同時に部活動を見学することで、中学校生活



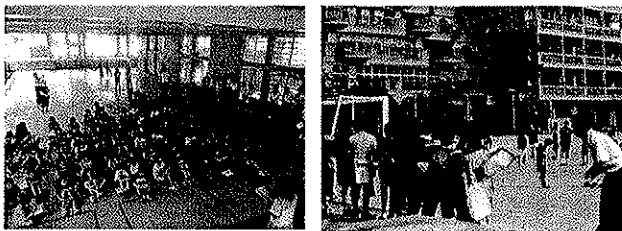
の期待感を高め、部活動に対する意欲・関心を高める。

イ 中学生が小学生へ向けて話し、部活動を行っている姿を見せる事で、先輩としての自覚を高める。

②期日 5月31日(金) 15:05～16:15

③場所 神原中学校・神原小体育館

- ④日程・内容
 15:05 開会式開始（各部キャプテン 11名部活紹介：中学生部活動開始）
 15:20 部活動見学開始（生徒会事務局 3人の先導でクラス毎に部活動見学）
 15:55 閉会式（各校児童1人感想発表）
 ⑤相互交流（コミュニケーション）
 6月3日（月）～6月21日（金）
 ア 小学校6年生から部活動生への応援メッセージを作成する。
 イ 中学校職員室前に掲示コーナーを作り、応援メッセージを掲示する。
 ウ 小学校からの応援メッセージを中学校の給食時間に校内放送で紹介する。
 エ 小学校6年生への大会結果報告を各部活動のキャプテンに作成させる。
 オ 大会結果を各小学校で掲示する。



(4) 小学6年生の合唱コンクールへの参加中学生の合唱を鑑賞させることで、中学校生活に対する希望や抱負を抱かせることを目標に行う行事である。また、部活動見学と同様に、昨年にはない取り組みとして、事前事後に相互交流の場面を設け、1年次の内容の充実を図った。

- ①ねらい
 ア 小学生がコンクールを参観することで、神原中校区小中一貫教育校の取り組みを強化する。
 イ 本格的な場所での中学生の発表を鑑賞することで、ステージマナーや鑑賞マナーを体得する。

- ②期日 10月30日（水）14:00～15:20
 ③場所 那覇市民会館大ホール
 ④当日の日程

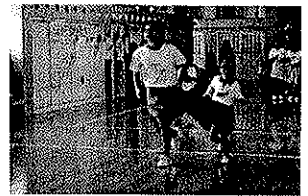
神原中学校		神原・壺屋小学校	
13:50 ～ 14:35	1・2年生 合唱	14:00(壺屋小) 14:30(神原小) 14:05(壺屋小) 14:35(神原小)	那覇市民 会館集合 二階席に 入場
14:45～ 15:20	3年生 合唱	14:05～ 15:20	鑑賞
15:20～ 16:20	7トラクション 閉会式	15:20	退場 (静かに)

- ⑤相互交流（コミュニケーション）
 ア 去年の小学校6年生の感想を中学校の給食時間に校内放送で紹介する。
 イ 中学校各クラスの学級紹介文を小学生に紹介する。（ワークシートに記載）
 ウ 合唱コンクールの結果を小学校生へ報告する。



- エ 児童の見学ワークシートを中学校職員室前に掲示し、感想を紹介する。
 (5) 小中特別支援学級の交流会

- ①ねらい
 神原中校区の小学校2校と中学校の特別支援学級に在籍する児童並びに生徒が集い合って、レクリエーションをすることで、人的交流の体験を深めたり、その楽しさを味わわせたりする。



- ②日時 11月15日（金）
 神中登校日 9:55～11:45

③場所 神原中学校武道場

④参加者

学 校	クラス	児童・生徒	引 率
神原小学校	仲良しきこえ	10人	4人
壺屋小学校	ひまわり	4人	1人
神原中学校	特別支援・難聴	6人	2人
合 計		20人	7人

⑤交流会内容

	内 容
	開会式：司会（中学生）
1	①はじめのことば ②歌「ゴーゴーゴー」 ③自己紹介 ④校長先生の挨拶
2	準備運動
3	大玉転がし（2人1組）
4	牛乳パックタワー作り（1回戦のみ）
5	デカパン競走（2人1組でA、Bの2組でリレー方式で競技）
6	自由遊び（休憩を取りながら、コミュニケーションを図る）
7	玉入れ（円形で2組で競う）
8	じゃんけん列車（じゃんけんをする相手は自分で探す）
	閉会式：司会（中学生）
9	①成績発表・挨拶 ②感想発表（各学校） ③終わりの挨拶

(6) その他

試行期間を含めこの3年間で、上記にあげた交流行事以外に次の行事を行った。

- ①中学校オリエンテーション
- ②平和学習・集会
(児童会・生徒会合同で平和宣言作成)
- ③児童会のリーダー研修会への参加

3 まとめと考察

本研究の2年次にあたり、一連の交流行事が、小中一貫教育の目的に対して有効であるのかを検証する必要がある。

その検証の方法として、まず、把握する指標の設定を行った。それは、コミュニケーション能力の変容とルール、マナーの習得状況である。コミュニケーション能力とは、「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことの無い問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ合意形成・課題解決する能力」と定義されている(文部科学省より)。そのことから、取り組みを通して、コミュニケーション能力が高まれば、物事に対してより深い理解が生まれ、それにつれ、ねらいである中学校生活に対する期待感や意欲・関心の高まりが促進でき、それが希望や抱負を抱くことに繋がると考える。また、その過程の中で社会性の習得にも繋がると考えられる。つまり、コミュニケーション能力の変容を検証することは、ねらいの達成を検証することと同義だと考えられる。

次に、評価方法として、アウトプット評価、アウトカム評価、職員評価を組み合わせた包括的な評価を目指す。アウトプット評価とは、「何を実施したかという評価」が中心になる。つまり、ここでは、考えや思い、感情を伝え合う(コミュニケーション)場面・機会を設定することができたかを評価する。アウトカム評価とは、「教育の成果」を評価するものである。また、主観に偏らないためにできる限り数値化に努める。

(1) 部活動見学評価結果

①アウトプット評価

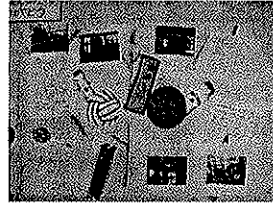
考えや思い、感情を伝え合う場面や機会(量的な側面)を3回設定することができた。さらに伝え合う方法を工夫できた。

ア 部活動見学(中学生から小学生へ:



キャプテンの説明と練習の様子を見せる。)

イ 応援メッセージ・感想(小学生から中学生へ:文章で表現し、それを校内放送(3日間)と掲示で伝える。)



ウ 大会結果報告(中学生から小学生へ:文章と写真で表現し、それを掲示して伝える。)

②アウトカム評価

教育の成果、ここでは、コミュニケーション能力が実際に身についたのか(質的な側面)を評価した。

ア 評価規準による集計結果

項目	割合
応援メッセージ・感想を用紙の全行の8割以上書くことができたか。	55%
先輩への応援メッセージを表す文章が書くことができたか。	100%
部活動についてわかったことを書くことができたか。	80%
部活動に対しての抱負を書くことができたか。	48%
部活動についてわかったことと応援メッセージを表す文章の両方を書くことができたか。	77%

・「応援メッセージを表す文章を書くことができたか」という項目は100%であり、全員が中学生に向けメッセージを書くことが出来た。時期的に、地区夏季大会の直前の見学であり、中学生の大会に向けた意気込みが強く、その思いが小学6年生には、伝わりやすかったのではと思う。また、感想ではなく、メッセージ形式にしたことも理由の1つだと考えられる。

・「部活動に対しての抱負を書くことができたか」という項目は48%である。部活動を見学することで、実際の具体的な活動を知ることができ、それが、やってみたくという希望・抱負に繋がっている児童が約半数いたことがわかる。

上記の表のように数値化し、考察したが、検証としてはやや難しい点がある。コミュニケーション能力は、数値データと児童の生の声（感想）の両方で、評価する必要がある。

イ 小学生の応援メッセージと中学生の大会結果報告

【小学生の応援メッセージ】

今日、部活見学があって、色々な部活を見ました。見学しているとある事に気づきました。それは、みんな一生懸命だという事です。なので、ぼくは、すごいと思い、とても感動しました。そして、あと一つ気づいた事があります。それは、走ったり、ずっと集中するのはとても疲れます。でも、楽しそうに部活をしていました。だから、ぼくも楽しく部活をしたいです。そして、色々な部活のキャプテンは、大会があるとっていました。全部の部活の部員が1位を取れるようにがんばって下さい。

【中学生の大会結果報告】

6年生のみなさん、応援ありがとうございました。6年生が応援していると思うと頑張れました。私たち、女子バスケット部は、1回戦松城中とでした。たくさんの応援の中、調子が良い人もいて、神原中の連続得点もあり、かなりの差をつけて勝つことができました。2回戦は、古蔵中とでした。昨年優勝チームだけあって、雰囲気から強そうでした。相手のディフェンスにやられたり、自分たちのパスミスで、たくさん点を取られてしまい、負けました。私たち3年生は、これで引退なので、次は、受験生となります。バスケットで身につけた体力と根性でこれから、受験に向けて、頑張りたいです。

・部活動見学やその後の大会を通して、わかったこと、感じたことを言語を用いて相手に伝えることができたと考えられる。

ウ ルール・マナーについて

	できた	まあできた	あまりできなかった	できなかった
話を静かに聞けたか。	76%	23%	0%	1%
迷惑かけずに見学できたか。	73%	26%	1%	0%

・99%の児童が、ルール・マナーを守って、見学した。

③職員評価

ア 取り組み内容について

- ・全体の部活紹介のあと見学するので興味を持って見学できた。
- ・昨年の反省も生かされ良かった。
- ・形式は簡素化しても良いと思う。
- ・最初の部活紹介はカットして、全部活の見学をさらりとすませた後、6年生が実際にやってみたいと思っている部活動に入り、あいさつを交わしたり、説明を聞いたり、じっくり見学することによって、もう少しコミュニケーションもとれるのではないかと思います。

イ コミュニケーション能力について

- ・中体連に向けた応援メッセージや見学の感想から、中学生の部活に取り組む姿勢に感動したり、自分の目標を立てたりと学ぶべきものが多々あったことがわかった。
- ・相手意識をもった応援メッセージがしっかりかけていたという意味では、よく出来ていた。
- ・中体連前だったので、いい雰囲気の練習を見せられたなどと思う。中学生には小学生の見学は、ちゃんとやらないといけないなど意識させることができたんじゃないかと思う。

ウ 2年間の変容について

- ・今までは見られなかったが、小学生のジャズフェスティバルの練習に先輩が来て教える等の交流が見られた。
- ・昨年度2月の部活動見学により、少人数で活動している部活を見て、地道に活動する様子に感動して、入学後数名が実際に入部した。

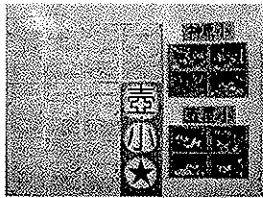
・部活動加入率の変化

	1年	2年	3年	全体
平成24年度	67.4%	66.7%	52.8%	61.5%
平成25年度	68.1%	63.6%	64.8%	65.4%

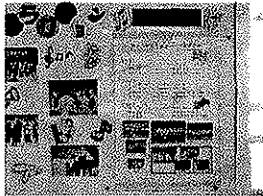
(2) 合唱コンクール見学評価結果

①アウトプット評価

考えや思い、感情を伝え合う場面・機会（量的な側面）を4回設定することができた。さらに伝え合う方法を工夫できた。



ア 中学校では、合唱コンクールの1週間前に、去年の小学6年生の感想を給食時間に校内放送で紹介した。(3日間)



イ 小学6年生の合唱コンクール見学ワークシートに中学校各クラスの学級紹介文をのせ、児童が各クラスの練習の様子や

意気込みを知ることが出来るようにした。また、ただ鑑賞させるだけでなく、各種賞(指揮者賞、伴奏者賞、金賞)の予想も記入させた。

ウ 後日、合唱コンクールの各種賞の結果を小学6年生へ報告した。

エ 小学6年生の見学ワークシート(感想)を中学校職員室前に掲示し、中学生に紹介した。

②アウトカム評価

教育の成果、ここでは、コミュニケーション能力が実際に身についたのか(質的な側面)を評価した。

ア 評価規準による集計結果

項目	割合
指揮者賞、伴奏者賞、金賞を予想することができたか。	100%
合唱を聞いて、感想を書くことができたか。	98%
合唱コンクールに対しての希望や抱負を書くことができたか。	52%

・「各種賞を予想することができたか」という項目は、100%であり、「感想を書くことができたか」という項目も98%で高い。中学生が合唱を通して、表現したことが児童には、十分伝わったと考えられる。

・「合唱コンクールに対しての希望や抱負を書くことができたか」という項目は、52%である。合唱や合唱コンクールに興味や関心を持ち、さらに中学生の合唱をモデルに自分たちもやってみたいと思う児童が約半数いたことがわかる。

イ 児童の感想より

・感動を表す言葉を抜き出すと次のように多くの表現があった。

・心に響く音色 ・素晴らしい ・レベルが高い ・きれいな歌声で泣いた ・迫力があつた ・比べものにならない ・声大きい ・一生懸命が素敵 ・リズムとハーモニーと響きがきれい ・声一つになってすごい ・かっこいい ・声のまじわり方がきれい ・指揮者の目を見て歌っていた ・心地よかった ・心を込めて歌っていた ・声が重なりよかつた ・真剣 ・歌わされているという感じがなく ・裏声が上手 ・恥ずかしがらずにやっていた高音が上手 ・クラスの雰囲気が出ていた ・心一つにして歌っていた ・きれいな伴奏 ・みんな口を大きく開け歌っていた ・男子の低い声と女子の高い声がある感動した ・一致団結

・希望や抱負を表す言葉は、次のような表現であった。

・指揮、伴奏をやりたい ・音楽を今の内に一生懸命しないといけない ・中学生を見習って頑張りたい ・中学生のように歌いたい ・中学生になったらああいう風に歌いたい ・ちゃんと声を出していきたい ・恥ずかしがらずに歌いたい ・今後、一生懸命に歌いたい ・上手になりたい ・中学生みたいにきれいに裏声が出せるように頑張りたい ・心一つにして頑張りたい ・12月のコンクールがんばりたい ・まねしたい ・真剣に歌いたい ・中学生になったらこんなことができるのかなって思った

・合唱という音楽的な表現、メッセージを、児童が感性豊かに感じ取り、そこからわき起こる感動や希望、抱負を言語を用いて表現することができたと考えられる。

ウ マナーについて

	できた	まあできた	あまりでなかつた	できなかった
マナーを守り、真剣に鑑賞できたか。	48%	46%	6%	0%

・94%の児童が、ルール・マナーを守って、見学した。

③職員評価

- ア 取り組み内容について
- ・良かったと思う。
- イ コミュニケーション能力について
- ・育成されたと思う。
 - ・児童も中学生の合唱を聞いて感動していた。中には、「中学校に行くことが楽しみになった。」と述べていた。興味・関心が高まっているようだ。
 - ・中学生が舞台上で歌う姿を実際に見ることで、その雰囲気や歌声から生徒たちの想いが伝わったと思う。
 - ・感想等を書いて、掲示することはよいと思う。

(3) 小中特別支援学級の交流会考察

評価は、職員アンケートと児童・生徒の感想をもって行う。

①職員評価

- ア 取り組み内容について
- ・良かったと思う。
- イ コミュニケーション能力について
- ・中学生が小学生に声をかけいたわる場面があった。自由時間に遊ぶことでもコミュニケーションがとれたと思われる。
 - ・小学生は事前に自己紹介の練習をしたので当日は、上手に発表ができていた。
 - ・中学生は感想発表が、スムーズではなかったので、日頃から発表する機会を設け、モジモジせず、自分の言葉で感想が言えるように練習したい。
 - ・身体を動かす活動が中心だったので、言語によるコミュニケーション能力は、あまり育成されたとはいえない。次年度は、その部分を考慮した取り組みを追加したい。



②児童・生徒の感想

【小学生の感想】

- ・ぼくは、大玉ころがしがたのしかったです。おにいちゃんとおねえちゃんとおそんでたのしかったです。つぼや小学校のみんなとおそんでたのしかったです。はじめは、緊張したけどなんかなれてきました。なまえもいえました。
- ・ぎゅうにゆうタワーづくりがたのしかったです。はじめは、ドキドキしたが、あとからたのしくなった。おにいちゃんはやさしかった。またあそびたいです。

【中学生の感想】

- ・今日、神原小の子と壺屋小の子で交流会をしました。いろいろな競技などして、とてもおもしろかったです。また、小学生といっしょに遊んでとてもおもしろかったです。今日の交流会でとてもいい勉強になりました。

(4) 小中合同授業参観について

①職員アンケートより

- ・神中登校日に実施することで、前年度、乗り入れ授業を実施する際の職員の移動の時間が省け、負担が減った。
- ・保護者にとっては、小学6年生が中学校体験する様子を参観できる良い機会になった。
- ・保護者に小中一貫教育の趣旨・取り組み等を説明することができた。
- ・6年生が中学校へ登校し、親も授業参観するのであれば、もう少し中学校側との関わりが多くてもよかった。
- ・神中登校日は、壺屋小、神原小と別々の日程なので、小中合同授業参観と大々的にする必要はなく、日頃からおこなっている授業参観でも十分だと感じた。

②保護者アンケートより

- ・小学校6年生の時期に中学生の教室で授業を行い、環境に慣れる機会があると子どもも親にとっても良いと感じました。機会を与えて下さりありがとうございました。
- ・子どもの意見も家に帰って聞いてみたいと思います。楽しそうに見え良かったと思います。
- ・土曜日と日曜日等にしてほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ①研究の2年次にあたり、何を目標に実践してきたのかを改めて見つめるとともに、取り組んできた交流行事が、研究主題に迫る取り組みであったのか、効果はあったのかを、検証する方法を探究することができた。
- ②それぞれの交流行事において、今年度は、1年次の取り組みに加え、新たに相互交流（コミュニケーション）を図る取り組みを検討し、実践することができた。その中で、文章で伝え合う場面を持つことで、言語によるコミュニケーション能力の育成に繋げることができた。
- ③部活動見学を継続して行った結果、部活動加入率が前年度より1年生で0.7ポイント、全体で3.9ポイント上昇し、部活動の活性化に繋げることができた。
- ④小学生は、中学生の行事での活動やその取り組み姿勢から中学校生活を知ると同時に、希望や目標を持つことができた。
- ⑤小中特別支援学級の交流会では、中学生が準備や片付けを積極的に行ったり、小学生をリードし優しく接したりすることで上級生という自覚と自尊感情を養うことができた。
- ⑥交流行事を神中登校日に行うことで移動の負担の軽減に繋げることができた。

(2) 課題

- ①交流行事をするにあたり、効果を高めるためにねらい等を伝える事前指導や意識を高める工夫がもっと必要である。
- ②交流行事の時期については、再度、小学校、中学校それぞれの行事を確認し、事前・事後の指導が着実にできるような日程を設定する必要がある。
- ③部活動見学では体験入部、合唱コンクールでは、中学3年生以外の学年の見学、特別支援学級の交流会では、身体を動かす活動以外の言語によるコミュニケーション等、ねらいを達成するためには、これからも継続して工夫改善に努める必要がある。
- ④今年度、神中登校日を授業参観にしたことで、小中合同授業参観は、特別に設定する必要はないと考える。

